

平成 24 年 1 月 20 日

第 21 回日本医療薬学会年会実施報告書

第 21 回日本医療薬学会年会

年会長 平井 みどり

神戸大学医学部附属病院 教授・薬剤部長

事業名: 第 21 回日本医療薬学会年会

主催者名: 一般社団法人日本医療薬学会

年会長: 平井 みどり(神戸大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)

会 頭: 安原 真人(東京医科歯科大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)

後 援: 一般社団法人日本病院薬剤師会、兵庫県病院薬剤師会、社団法人日本薬剤師会、
社団法人兵庫県薬剤師会、日本薬科機器協会

実施日程: 平成 23 年 10 月 1 日(土)～2 日(日)

実施場所: 神戸国際展示場

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-11-1

TEL: 078-303-7516 FAX: 078-302-1870

神戸国際会議場

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1

TEL: 078-302-5200 FAX: 078-302-6485

神戸商工会議所会館

〒650-8543 神戸市中央区港島中町6-1

TEL: 078-303-5801 FAX: 078-303-2312

クオリティホテル神戸

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-1

TEL: 078-303-5555 FAX: 078-303-5560

会場数 口演会場: 14、ワークショップ会場: 1、ポスター会場: 3、展示会場: 1

年会の趣旨

第21回日本医療薬学会年会を平成23年10月1日(土)、2日(日)の2日間、神戸市のポートアイランド・神戸コンベンションセンター(国際展示場・国際会議場)を中心に開催した。本学会は、平成2年日本病院薬剤師会を母体として、医療現場に携わる薬剤師のみならず、医療薬学に関する教育研究者ならびに創薬に関わる薬学研究者の集まりである。その後、日本医療薬学会と改称、平成20年には一般社団法人を取得、会員数は病院・薬局など医療現場に携わる薬剤師を中心として発展を遂げ、現在は製薬企業、教育機関、研究所等の薬剤師や薬学生にまで会員を広げている。本年会は年に一度、日頃の臨床業務・研究・教育の成果を発表するとともに、医療薬学に関する最新の知識と情報を交換・発信する場であり、また職種を超えた繋がりを育む、あるいは旧交を温める場として必要不可欠なものになっている。

薬剤師は従前からの業務に加えて様々な活躍の場が広がっており、ライフスタイルも多種多様化している。働く場でモチベーションを維持するためには、具体的な目標設定が重要である一方、適切なワークライフバランス/ワークライフインテグレーションを考えることも大切である。多忙な日常業務を少し離れたところから客観的に眺めなおすことも、リフレッシュしモチベーションを高めるよい機会になると考え、今回の年会テーマは“Enjoy Pharmacists Lifestyles”とした。特別講演は、医療の将来像と薬剤師への期待、ワークライフバランスと職場環境、行政からの薬剤師への期待に関する話題を企画した。教育講演は、混とんとした医療環境の中で何を示すことができるのかを皆で考える「感染症診療考え直し」、バイオマーカーによる個別化医療の確立を最終目標とした「がん分子標的薬の個別化医療」の2演題とした。

神戸は日本のジャズの発祥の地でもあり、その演奏はチームワークのよさ・アーティスト間のコミュニケーションのよさが表れる。医療現場でも同じことが当てはまると考え、シンポジウムは、原則として多職種で行うチーム医療に関わるテーマを公募・企画した。薬剤師の活動内容だけでなく、医師、看護師等のチーム医療としての取り組みが熱く討論されることを希望した。その結果、がん薬物治療、感染制御など専門薬剤師を見据えたものから、今後の備えとなるように願いを込めた災害医療に関するものまで、過去最高の33シンポジウムとした。その中には、“医領”解放構想とメディカルイノベーション、チームで目指す医療安全、医療におけるマネジメントなどの今までにはないテーマを取り上げた。また、市民公開講座は2日(日)15時から、「緑内障で失明しない為に」「神戸低侵襲がん医療センターについて」と題して企画した。一般演題は、参加者の有意義な討論の場とするために、ポスター発表は2日間貼付するよう、十分なスペースを準備した。示説についても、シンポジウムなどのプログラムとは可能な限り重複しないよう配慮した。講演要旨集の日程表には、各々該当する頁や見出しを記載し、利便性を高めるようにした。本年会が薬剤師業務の改善などの創意工夫、あるいは主体的、積極的な医療薬学への関わりについての意見交換の場となることを期待している。

会費等の設定

参加費	会員	非会員	学生	懇親会	一般	学生
事前参加登録	8,000 円	12,000 円	3,000 円	事前登録	8,000 円	4,000 円
当日参加登録	12,000 円	15,000 円	4,000 円	当日登録	10,000 円	5,000 円

東北3 県(岩手、宮城、福島)に自宅、もしくは勤務先がある方は、東日本大震災の被害を鑑み、参加登録費免除

講演要旨集:3,000 円

市民公開講座:無料

共催ワークショップ(予約制):無料

事業内容

1.メインテーマ	“Enjoy Pharmacists Lifestyles”		
2.年会長講演	1 題		
3.日本医療薬学会学術貢献賞受賞講演	2 題		
4.日本医療薬学会奨励賞受賞講演	2 題		
5.特別講演	3 題		
6.教育講演	2 題		
7.シンポジウム	32 題		
8.一般演題	1,513 題	口頭	216 題
		ポスター	1,297 題
9.スポンサードシンポジウム	1 セッション		
10.共催セミナー	26 セッション	ランチョンセミナー	25 セッション
		モーニングセミナー	1 セッション
11.共催ワークショップ	5	セッション	
12.市民公開講座	2 題		

参加者数

一般参加者数:	7,524 名
招待者数:	40 名
懇親会:	395 名(招待者除く)
市民公開講座:	124 名

一般参加者内訳参考資料

参加者内訳	正会員	非会員	学生	参加費免除 (被災地域)	合計
事前登録	3,746	1,151	241	136	5,274
当日登録	995	1,018	197	40	2,250
一般参加者計	4,741	2,169	438	176	7,524

事業成果

第 21 回日本医療薬学会年會を平成 23 年 10 月 1 日(土)、2 日(日)の 2 日間、神戸市のポートアイランド・神戸コンベンションセンター(国際展示場・国際会議場)、神戸商工会議所会館、クオリティホテル神戸の 4 施設 14 会場他で開催したところ、7,500 名を超える過去最高の参加者を数えた。一般演題はこれまでと同様に、要旨の体裁、倫理的問題および日本医療薬学会会員資格などに留意し、組織委員会にて厳正な採択審査を行った。最終的には口頭発表 221 演題、ポスター発表 1,306 演題、計 1,527 演題に達した。また、年會前日 9 月 30 日(金)には、例年通り、日本病院薬剤師会主催の平成 23 年度日本病院薬局協議会を国際会議場国際会議室にて開催した。

本年會のメインテーマは「Enjoy Pharmacists Lifestyles」とした。特別講演は、財団法人先端医療振興財団理事長の井村裕夫先生から、「医療の将来像と薬剤師への期待」とくに先制医療を中心に」と題して貴重な講演をいただいた。大阪厚生年金病院名誉院長・統括医療顧問、清野佳紀先生から「ワークライフバランスに基づいた病院経営」、厚生労働省大臣官房審議官、平山佳伸先生から「医薬行政の課題と薬剤師への期待」の計 3 題、私たちの薬剤師業務に対するモチベーションを最高に向上させるご講演を頂戴した。教育講演は、神戸大学大学院医学研究科の岩田健太郎先生から、混とんとした医療環境の中で何を示すことができるのかを皆で考える「感染症診療考え直し」、2 日目のランチョンセミナーの前、第 1 会場を準備したにもかかわらず、立ち見が出る程の大盛況となった。同じく神戸大学大学院医学研究科の南博信先生から、バイオマーカーによる個別化医療の確立を最終目標とした「がん分子標的薬の個別化治療」について、ご講演をいただいた。

シンポジウムは、原則として多職種で行うチーム医療に関わるテーマを公募および企画した。薬剤師の活動内容だけでなく、多くの医師、看護師等のチーム医療としての取り組みが熱く討論されるように設定した。がん薬物治療、感染制御など専門薬剤師を見据えたものから、Pharmacist International Symposium、今後の備えとなるように願いを込めて災害医療、抗がん剤による職業曝露対策に関するスポンサードシンポジウムを含む過去最高の 33 シンポジウムとなった。特にシンポジウム 1「“医領”解放構想とメディカルイノベーション」は、スマートフォンと医療クラウドとの融合、地域医療イノベーション、情報通信技術(ICT: Information communication technology)ソリューションによる医領解放の発案と実践に関する内容であり非常に好評であった。その他、チームで目指す医療安全、医歯薬看工学連携による次世代型在宅支援チームの構築、医療におけるマネジメントなどの今までにはないテーマを取り上げ、参加者の関心も非常に高かった。日本病院薬剤師会が認定する感染制御領域、がん領域、HIV 領域の講習会として各々承認されたシンポジウムを計 4 企画実施した。シンポジウム 21「血液腫瘍の世界へ飛び込め」では、国際展示場 2 号館 3 階 3A 会議室、約 400 席の会場を準備したが、単位認定を希望して参加証明書を求める方を出入口付近にも収容できず入場制限を行った。また、市民公開講座は 2 日(日) 15 時から、「緑内障で失明しない為に」「神戸低侵襲がん医療センターについて」と題して行った。新聞広告など兵庫県内を中心に広報活動し、事前予約による一般入場者も 200 名を超えた。一般市民に対して、日本医療薬学会および薬剤師の活動をアピールできたと考える。

一般演題は口頭発表とポスター発表を併せて、遂に 1,500 演題を超える応募となった。口頭発表の座長は、兵庫県病院薬剤師会、兵庫県薬剤師会、近畿地区の薬系大学教員を中心とした年会組織委員および神戸大学医学部附属病院薬剤部職員が担当した。特別講演、教育講演、シンポジウムなどの講演に備えて 4 施設計 14 会場を準備し、年会運営事務局(株)JTB コミュニケーションズコンベンション事務局の円滑な企画運営により、概ね十分な座席を用意できたと思われる。一方、約 1,300 題のポスター発表は、有意義な討論の場とするために 2 日間貼付することとし、閲覧時間を十分に設定した。示説についても、他のプログラムとは可能な限り重複しないよう、1 日(土) 17 時から 18 時(奇数番号)と 2 日(日) 9 時から 10 時(偶数番号)とした。薬剤師業務の改善などの創意工夫、あるいは主体的、積極的な医療薬学への関わりについての意見交換の場となった。今をいかに充実させるか、そして楽しめるか、ゆっくり楽しく考える時間を提供することができたと思われる。

ワークショップは例年通り、日本薬科機器協会ワークショップと併せて 8 企画を実施した。コミュニケーション能力・技術の向上、褥瘡あるいは輸液ライン設計のフィジカルアセスメント、抗がん剤調製支援システムなどの実践的なプログラムが行われており、事前申込者を含む参加者には概ね好評であった。会場周辺には昼食を食べる飲食店が十分ではないことから、ランチョンセミナーは 2 日間で 25 企画を準備した。事前参加登録者には、あらかじめ整理券を年会参加証とともに郵送していることから、当日長蛇の列となることもなく混乱はほとんどなかった。その他、モーニングセミナー 1 企画、スイーツセミナー両日ともに 1 企画を行い好評であった。ドリンクコーナーは神戸大学ブランドのお茶飲料を用意し、予定した時間内、過不足なく提供することができた。懇親会は年会初日 18 時 30 分から、年会会場に隣接する神戸ポートピアホテル南館 1 階大輪田にて行った。例年とは大きく趣向を変え、旧交を温める場としてだけでなく、講演要旨集の表紙にも採用したジャズセッションを交えて、秋の夜長を気楽にリラックスできるよう演出した。

2 日間の年会日程では、多様化、拡大を続ける薬剤師業務を全て網羅することは難しい。そこで、特別講演やシンポジウムの内容は一部を除いてアーカイブ化し、年会終了後、年会 Web サイトにて閲覧できるようにした。ご講演に使用したパワーポイントのご提供に快諾いただいたことに心から感謝申し上げる次第である。年会期間中、天候にも恵まれたことやポートライナーの市民広場駅を中心に徒歩で移動できる 4 ヶ所の会場設定が功を奏したこともあるが、当日参加者が予想よりも遙かに多く、講演要旨集が足りなくなるのではと心配する程であった。

最後に、年会期間中は、大きな事故やトラブルもなく滞りなく運営できたこと、本報告書書面をお借りして皆様のご協力に感謝いたします。